



Photo by Masahiro Shimizu

ENEOSホールディングスの上場子会社、道路舗装最大手のNIPPOがTOB(株式公開買い付け)を経て、株式が非公開化される。ENEOSは、保有するNIPPO株(56.8%)を全て売却する。これとは別に、ENEOSが設立した特別目的会社(SPC)が、NIPPOに対してTOB(株式公開買い付け)を実施。このSPCに対して、ゴールドマン・サックスも出資することが分かった。それぞれの出資比率などスキームの全貌を明らかにする。(ダイヤモンド編集部編集委員 清水理裕)

石油元売り最大手、ENEOSホールディングス(HD)の上場子会社である道路舗装最大手のNIPPOが、TOB(株式公開買い付け)を経て、株式を非公開化される。これとは別に、ENEOSHHDはNIPPOに自社株買いをさせて、保有するNIPPOの株式(56.8%)全てを2500億円超で現金化する([『ENEOSが東証1部上場子会社・道路舗装最大手のNIPPOを売却、同社がTOBで非公開化』](#)で詳報)。

NIPPOへのTOB(ENEOSHHDの持ち株を除いた43.2%が対象)は、ENEOSHHDが設立・出資する特別目的会社(SPC)が実施する。2022年初頭にNIPPOが上場廃止となった後、このSPCがNIPPO株を100%持つ形となり、ENEOSHHDはNIPPOの連結を維持。このSPCに対して、米大手証券のゴールドマン・サックスも出資に参加する方針を固めた。ダイヤモンド編集部の取材で分かった。

ENEOSHHDとゴールドマン、それぞれの出資比率など、スキームの全貌を次ページで明らかにしたい。また、アクロバティックな資本政策ともいえる、全子会社株の現金化と、SPCを介在させた連結維持に踏み切るENEOSHHDの思惑についても、詳しく触れる。

次のページ

ENEOSによる「常識外れ」の資本政策、スキームの全貌を暴露

続きを読むには...

この記事は、有料会員限定です。

有料会員登録で閲覧できます。

[有料会員登録](#)

有料会員の方は[ログイン](#)

ダイヤモンド・プレミアム(有料会員)に登録すると、忙しいビジネスパーソンの情報取得・スキルアップをサポートする、深掘りされたビジネス記事や特集が読めるようになります。

- オリジナル特集・限定記事が読み放題
- 「学びの動画」が見放題
- 人気書籍を続々公開
- The Wall Street Journal が読み放題
- 週刊ダイヤモンドが読める

[有料会員について詳しく](#)

-
-
-
- 有料会員になると記事のクリップ機能がご利用いただけます。詳細は[こちら](#)

閉じる